

ラテンアメリカの貿易構造(統計解説)

著者	相原 好江
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	3
号	3
ページ	24-25
発行年	1986-09-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006721

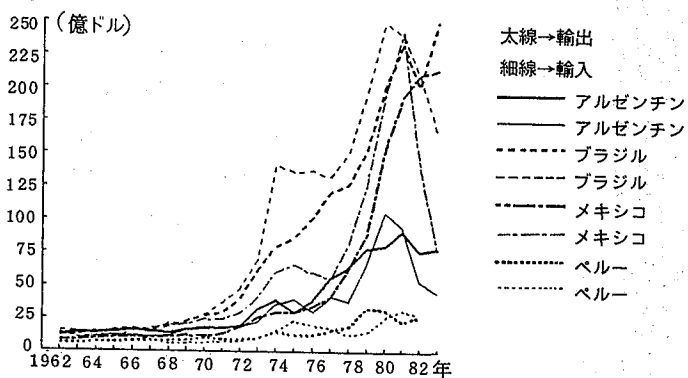
ラテンアメリカの貿易構造

相原好江

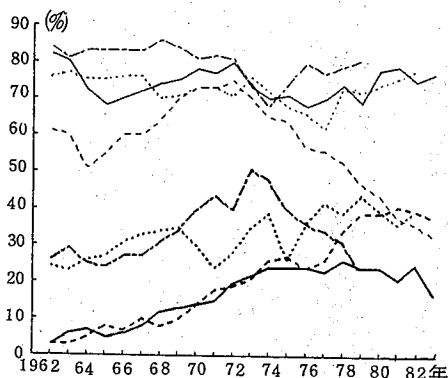
(統計部)

本資料は、過去20年間のラテンアメリカにおける貿易構造の変化を、アジア経済研究所所蔵の「国際貿易統計磁気テープ」のデータを使用してとりまとめたものである。主としてメキシコ、ブラジル、アルゼンチンを対象としているが、その他に、ペルー、ジャマイカをつけ加えた。データの制約上、各項目はこれら全ての国をカバーしていない。対象期間は、主に1962～83年の期間をとり、標準国際貿易商品分類(SITC, 10部門)によって輸出入構成の変化をみた。なお、輸出入の相手地域としては、日本、米国、ヨーロッパをとりあげた。

輸出および輸入額の推移 (1962～83年)

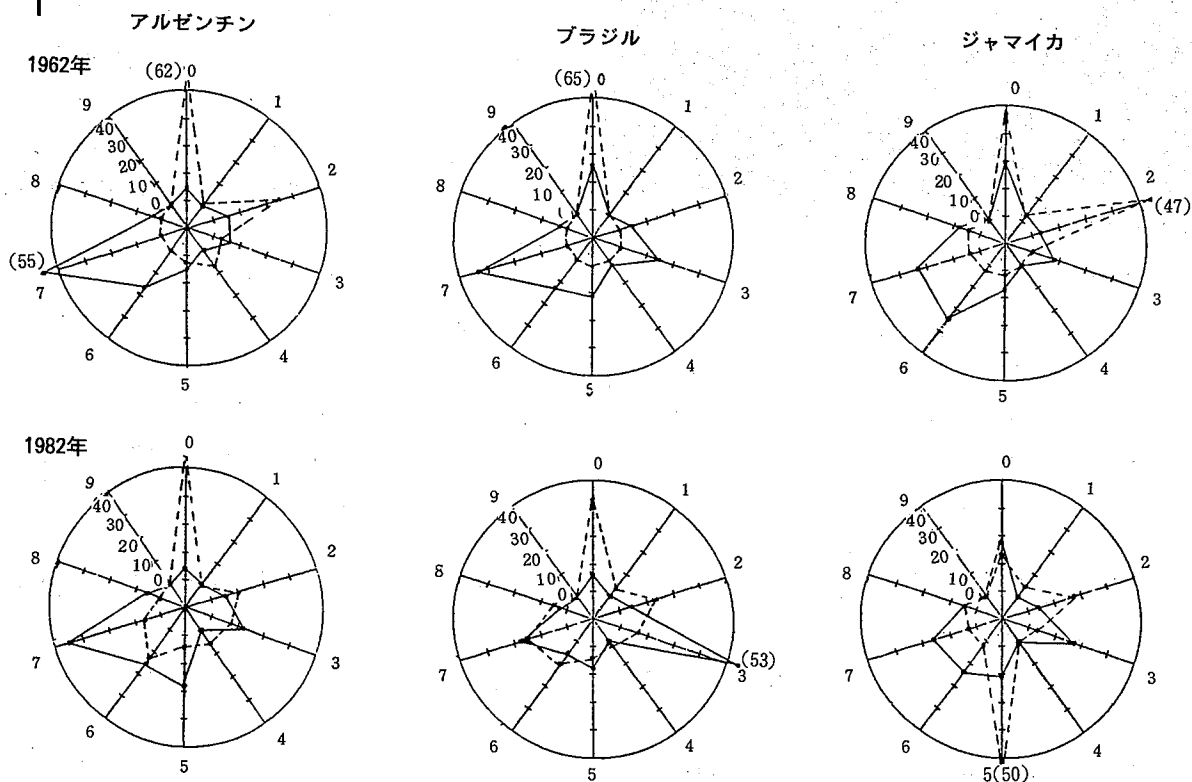


輸出および輸入額における工業製品*の比率 (1962～83年)



* SITCにおける第5部から第9部の合計

SITC, 10部門による輸出入構成の変化 (%)



工業製品の地域別依存度の推移 (1962~83年)

